小川町は外秩父の山に囲まれた「武蔵の小京都」とも呼ばれ、和紙（細川紙）で知られた町である。14年10月にユネスコ無形文化遺産としてこの和紙が登録される見込み。また、小川町は起業家精神の旺盛な土地であり、「ヤオコー」は小川町の八百屋の「八百幸」が、「しまむら」は「島村呉服店」が夫々発展したものである。

「幕末の三舟」の一人として高名な山岡鉄舟（小野鉄太郎）は、小野家の知行地が小川町竹沢（現在の東武竹沢駅付近）にあったため、この地をしばしば訪れ、二葉旅館で飲食するのが常だったようで、その際二葉の八木忠七に「調理に禅味を盛れ」と命じたのがきっかけで「忠七めし」が出来たと言われている。

三舟の内あと二人は、勝海舟と高橋泥舟である。勝はよく知られているが、高橋泥舟はそうでもない。高橋はもとは山岡精一郎といい、槍の達人であって、徳川慶喜の信任が厚く、慶喜の身辺警護などを任されていた。母方の高橋家の養子となって高橋泥舟と名乗った。後に高橋伊勢守の位を慶喜から授けられる。

小野鉄太郎は高橋泥舟に請われ山岡家へ婿入りし山岡鉄舟と名乗ったが、剣道、書道、禅に優れた人物で、西郷隆盛と駿府で江戸無血開城のお膳立てを成し遂げた。仕上げは勝海舟が西郷隆盛と面談して決定した。山岡鉄舟は身長188cm、体重105kの偉丈夫であった。下は「幕末三舟」の写真である。

勝海舟

山岡鉄舟

高橋泥舟

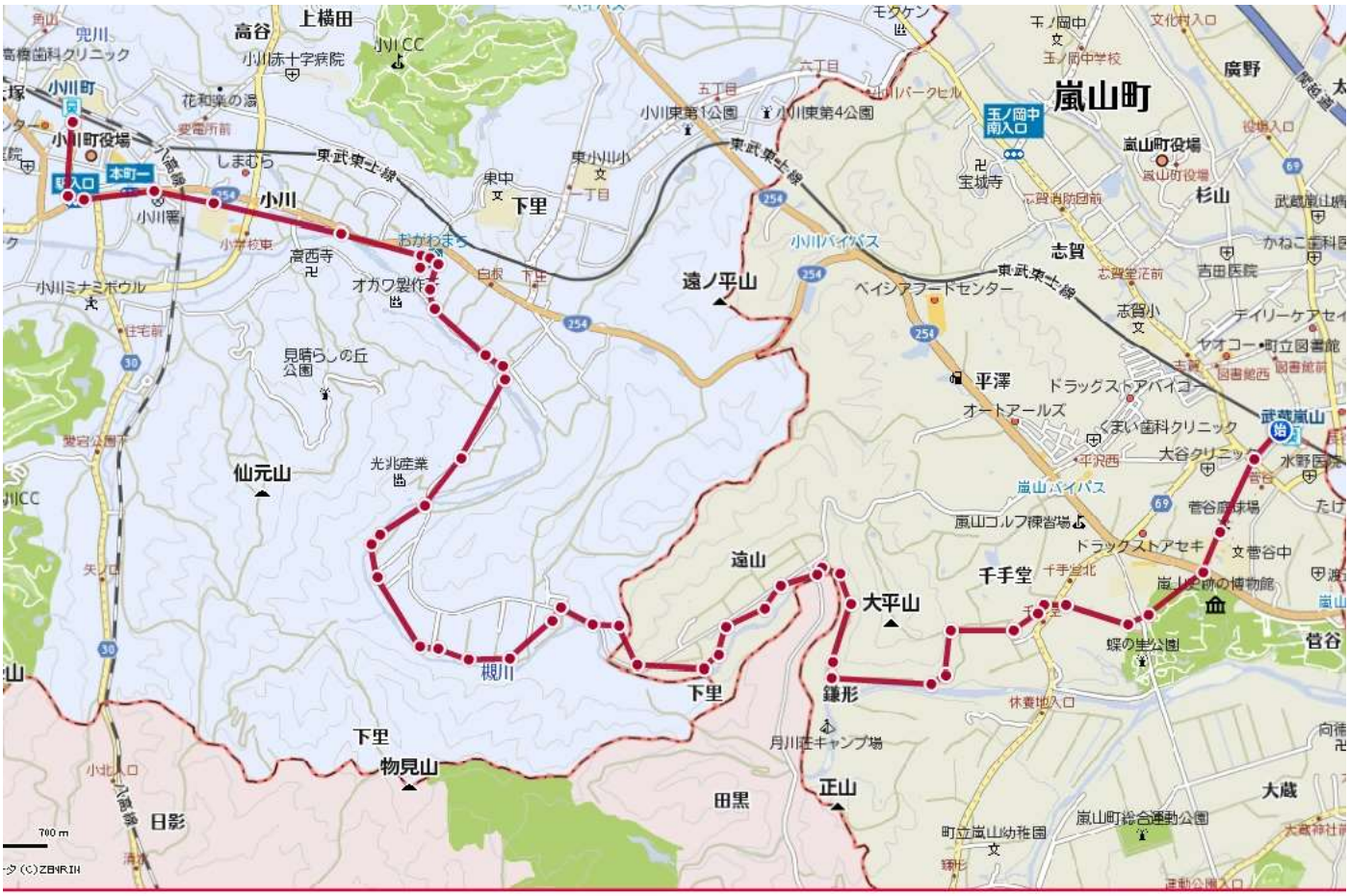
小川町には「女郎鰻」で知られる福助がある。創業は安政2年と古く、現在の建物は明治の建築で木造3階建てである。2代目の主人の頃、主人の知人が吉原の遊女を身請けして福助に預けた。その遊女がお礼に生家である鰻屋のタレを教えて福助でもうなぎ料理を出すようになったと伝えられている。その代々伝えられているタレの味は少し甘目で、普段一般に鰻屋で食べる味とは少し違うので違和感を覚えるかもしれない。

今回の中参歩こう会の昼食は、埼玉B級グルメで3位になったという「辛モツ焼きそば」としました。上の「忠七めし」や「女郎鰻」は少々高い（2,500円から）のでパスしました。嵐山は7月に行った山百合の咲いていた畠山重忠の菅谷館跡や安岡正篤の金鶏神社だったですね、覚えておられますか？また嵐山は木曽義仲の生誕の地でもありました。我が埼玉の地も調べると面白いものです。

裏面に地図など載せています。

小川町から槻川に沿って嵐山渓谷まで歩きます。槻川は今年7月に訪れた「蝶の里公園」の下で都幾川と合流して荒川へと流れ下る。「嵐山渓谷」は本多静六が京都の嵐山に似ていることからランザンケイコクと命名した。京都の嵐山はアラシヤマであり、これと区分するためランザンとした。
また、本多静六は林学博士で、日比谷公園、明治神宮などの多くの公園などを開設したことで知られる。

尚、毎年4月に開催される「外秩父七峰縦走」はこの小川町を起点にして外秩父の七つの峰を縦走して寄居まで42kmを歩くものです。森は3回、大島会長も何度か縦走されて完走記念の帽子を貰っています。5時の始発電車で柳瀬川を出て、6時半頃に小川町を出発し、寄居に辿り着くのは夕方の5時、6時頃です。中参歩こう会ではちょっと物足りない方は、是非一度挑戦しては如何！
その森の記録はこちら→http://isamusouma.web.fc2.com/09mid-yama.html



小川山岡鉄舟会 HP　→　http://tessyuu.com/index.htm